

「令和7年度沖縄におけるこどものウェルビーイング実現に向けた政策研究推進体制の在り方調査・検討事業」の概要

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ

2025/6

1. 本事業の目的

1. 本事業の目的

沖縄県は全国と比べ、出生率が高い一方、歴史的、地理的な問題に起因するさまざまな特殊事情から所得や若年妊娠率などに課題を抱えている。所得や世帯の状況にも影響を受けた学力等が相まって、親世代からの貧困の連鎖が生じるなど、こどもを取り巻く環境は大変厳しい状況にある。

本事業では、沖縄のこどもが将来にわたって身体的・精神的・社会的に幸福な状態(ウェルビーイング)で生活を送ることができるよう、効果的な政策手法の研究や政策実装の支援、その効果を把握するウェルビーイング指標の検討などを行うための学際的な研究体制の構築を目指す。

2. 調査・検討

- 2.1 調査・検討の概要
- 2.2.1 「こどものウェルビーイング」の考え方
- 2.2.2 沖縄におけるこどものウェルビーイングの必要性
- 2.2.3 こども政策と政策研究との官学連携・分野間連携の現状と課題
- 2.2.4 沖縄におけるこども政策の向上のための政策研究の在り方

2.1 調査・検討の概要

■ 業務概要

沖縄におけるこどものウェルビーイング実現のための政策実装に向けた政策研究の効果的な推進体制の在り方に関し、現状把握、課題分析及び対応方針の検討を行う。

■ 調査・検討内容

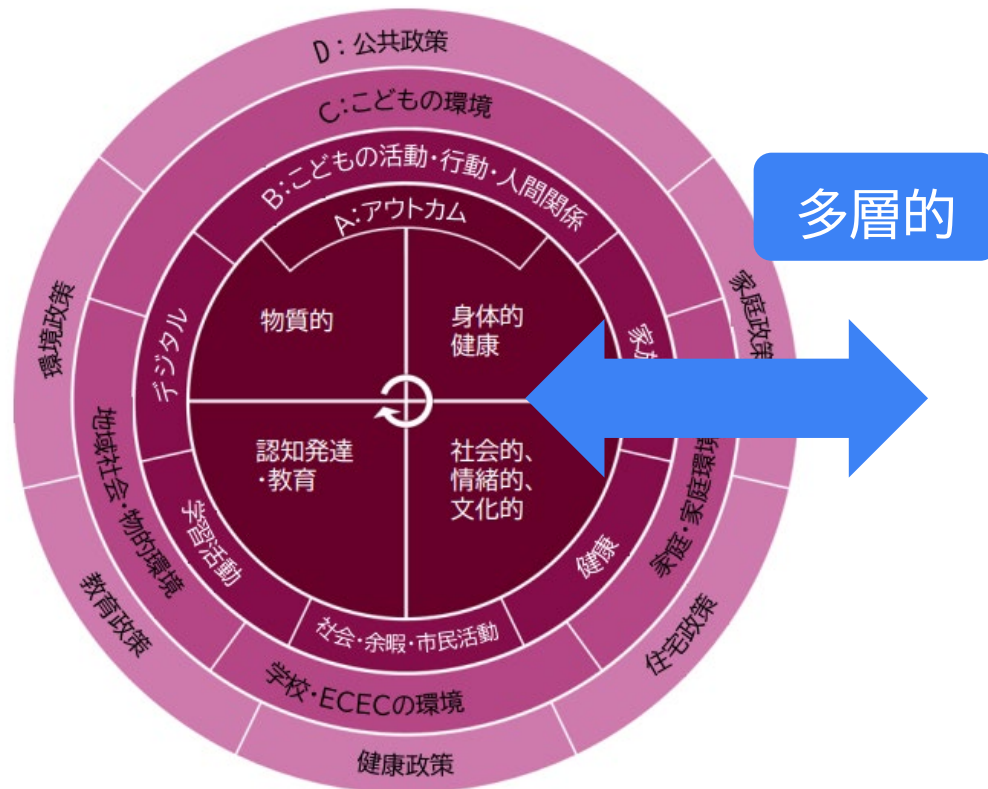
- ・「ウェルビーイング*」・「こどものウェルビーイング」の考え方
- ・沖縄におけるこどものウェルビーイングの必要性
- ・こども政策と政策研究との官学連携・分野間連携の現状と課題
- ・沖縄におけるこども政策の向上のための政策研究の在り方

*WHOの定義によると、身体的・精神的・社会的に満たされた状態。

2.2.1 「こどものウェルビーイング」の考え方

- こどものウェルビーイングは多層的な構成であるという理解で、協議体の議論の前提としてわかりやすく整理して提示する。

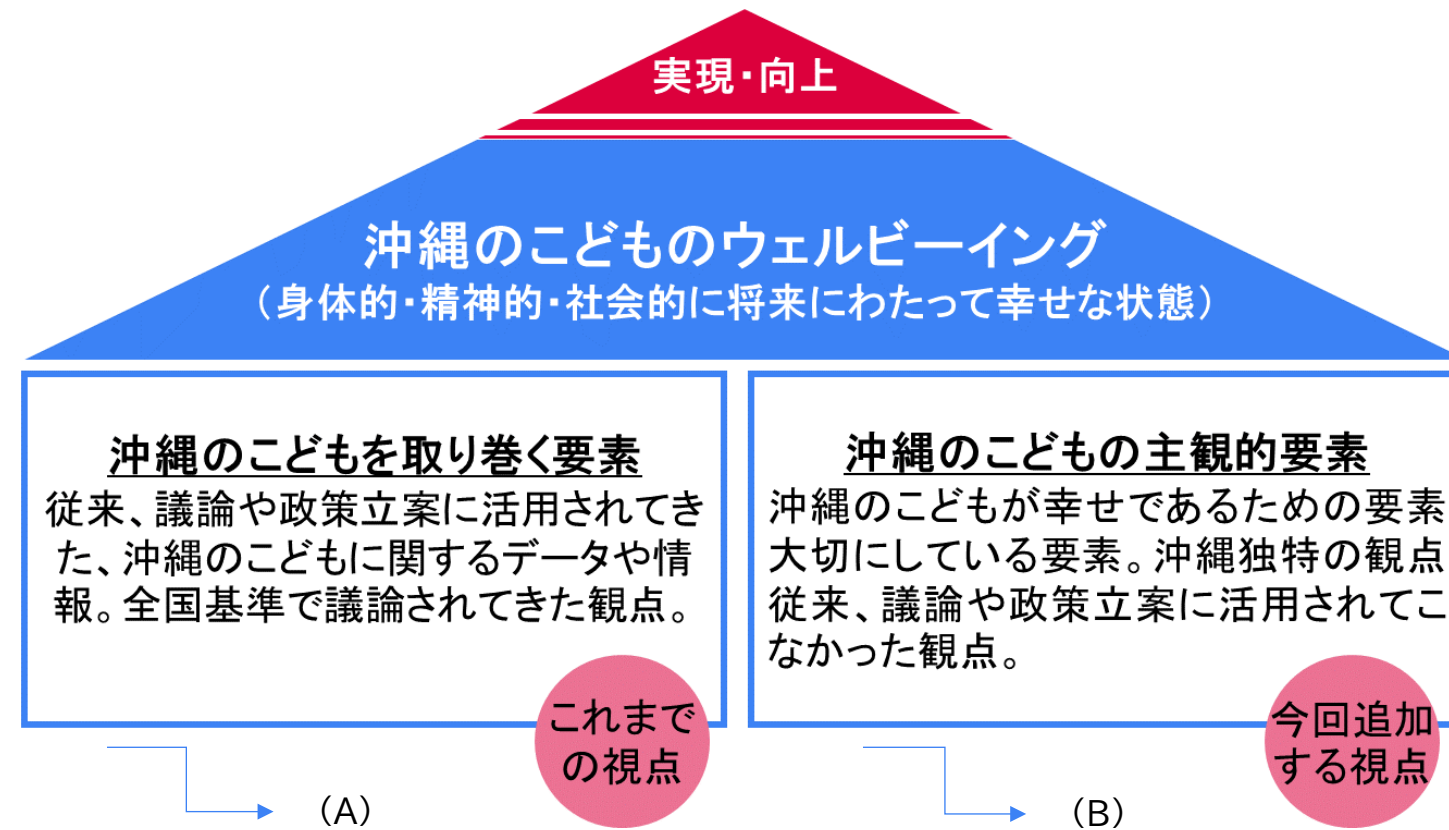
こどものウェルビーイング測定の概念的フレームワーク(OECD)



- 左図の通り、こどものウェルビーイングは、同心円状に多層的な構成となっており、中心部はこども自身を対象とし、外側へ向けて、こどもの活動・行動・人間関係、こどもの環境、公共政策が周囲を取り巻く構造になっている。
- 文献調査にて、国際機関、我が国の官公庁・自治体による「こどものウェルビーイング」についての考え方を整理する。また、「ウェルビーイング」や「こどものウェルビーイング」を政策においてどのように活用しているか、海外事例を中心として調査、整理する。
- 調査・整理結果は議論の前提として協議体に提示する。

2.2.2 沖縄におけるこどものウェルビーイングの必要性

- ウェルビーイングの考え方を取り入れることは、「個人の幸福観や価値観」という主観的要素を含むと考える。
- 主観的要素を取り入れることで、分野横断的に課題の関係性を整理し、沖縄のこどものウェルビーイングに関する政策研究が必要とされるテーマを提示する。

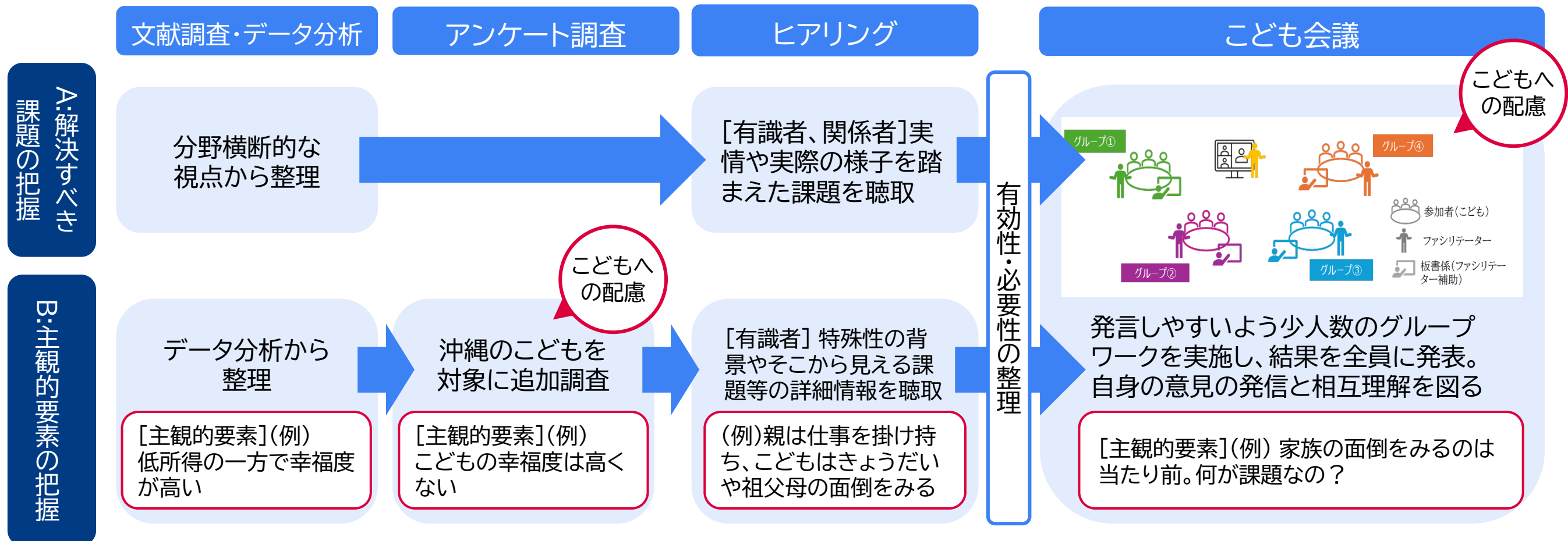


沖縄におけるこどものウェルビーイングは、現状・課題の従来の視点に、**主観的要素を新たに加えた考え方**であり、沖縄の課題や特殊性の検討で考慮すべき。

2.2.2 沖縄におけるこどものウェルビーイングの必要性

● 現状・課題・特殊性・ウェルビーイングの調査・検討方法

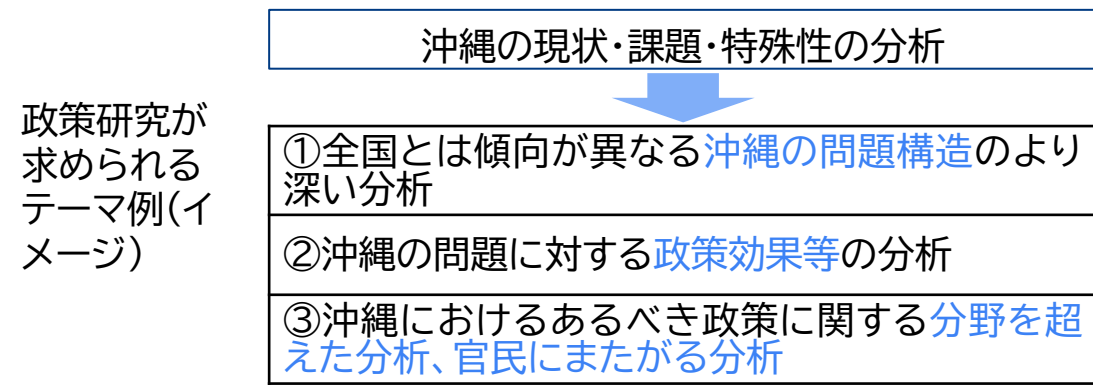
- 各種調査を通じて明確化した課題やウェルビーイングの観点の必要性について、こども会議を通じてこども自身の意見を聴取し、協議体で議論する論点に反映する。



2.2.3 こども政策と政策研究との官学連携・分野間連携の現状と課題

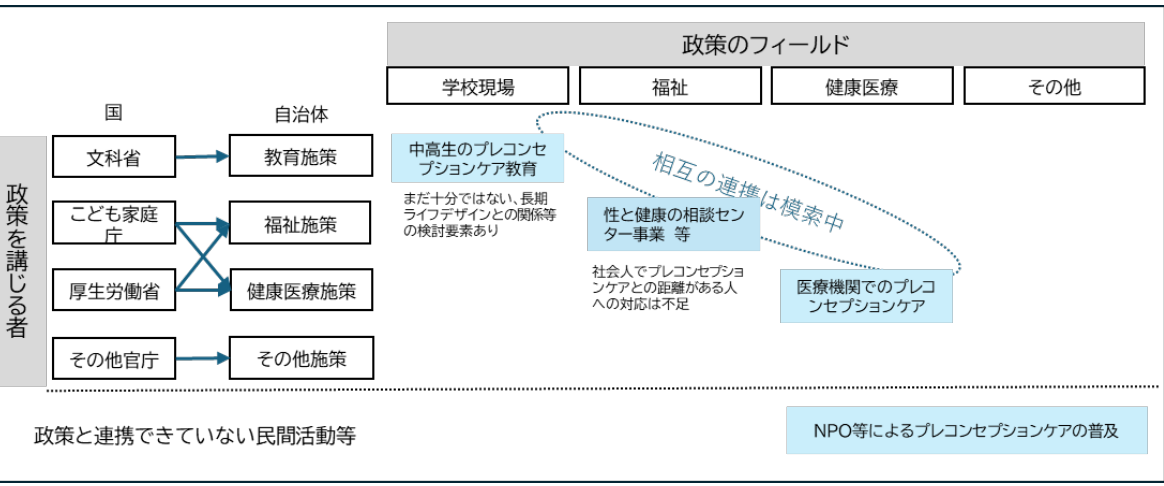
- 沖縄におけるこどものウェルビーイング実現に向けて政策研究が求められるテーマ例を3つの観点から検討し、政策研究の必要性があることを確認する。

①沖縄の現状・課題・特殊性からみた必要なテーマ



②政策マッピングからみた必要なテーマ

【例:プレコンセプションケア】分野をまたがる政策連携が課題



③全国の研究動向レビューからみた有望なテーマ

文献調査、有識者ヒアリング(15-20名)を実施

最新の研究動向、今後の研究課題を把握

教育	教育福祉論 教育心理学、発達心理学 教育経済学
福祉、貧困等	保育学 こどもの貧困 社会格差論 社会保障論
成育、保健等	成育医療 公衆衛生論 医療経済学
その他	家族社会学、女性学 人口学 行動経済学 労働経済学

政策研究が求められるテーマ例の提示

実施の意義がある、必要性が高い、ぜひ活用したい、と思われるテーマ例を提示

- 政策研究が求められるテーマ
- 求められる背景
- 先行研究での既知の知見
- 未解明であり解明が求められる研究課題
- 想定される研究アプローチ

2.2.4 沖縄におけるこども政策の向上のための政策研究の在り方

- 政策研究のニーズ・用途、政策研究の機能、今後の検討事項等について提案し、合意形成を図る。

政策研究のニーズ・用途(論点③)

行政機関、民間団体における政策研究の知見の活用法についてヒアリング等により確認

行政機関のニーズ
行政以外の機関、民間機関のニーズ
研究と政策をつなぐ中間人材の役割

政策研究の機能(推進体制)(論点④)

政策研究推進のための機能(最大)

調査研究機能 ①沖縄の現状分析
調査研究機能 ②政策効果の分析
政策エビデンス情報収集・提供機能
政策提言機能
人材育成・助言機能
社会実装支援機能
外部機関支援・連携機能
データ維持管理機能

政策研究の推進形態の例

研究プロジェクトとしての実施
拠点プロジェクトとしての実施
研究組織の設置①実体型
研究組織の設置②バーチャル型

研究推進体制の参考事例(10事例)

英国What Works Centre(s)
オックスフォード大学ウェルビーイングセンター
国立成育医療研究センターこどもシンクタンク

政策研究の推進体制のモデルプランの例(仮案)

A案 総合型
B案 EBPM重視型
C案 独自研究重視型
D案 こども健康医療研究ハブ型

今後の検討事項・スケジュール(論点⑤)

	令和7年度	令和8年度	令和9年度
現状認識(論点①)	定義、現状確認		
政策研究の必要性、政策研究テーマ(論点②)	政策研究の必要性		
政策研究のニーズ・用途(論点③)	ニーズ概略検討		
政策研究の機能(論点④)	モデルプラン提示		
今後の検討事項・スケジュール(論点⑤)	最初の案を提示		

今後検討

3. 協議体

- 3.1 協議体の概要
- 3.2 協議体におけるご議論を想定している主要な論点・各回の検討テーマ(案)
- 3.3 検討スケジュール・各種調査等との関係性

3.1 協議体の概要

■ 業務概要

沖縄におけるこどものウェルビーイング実現のための政策実装に向けた政策研究の効果的な推進体制の調査・検討に関し、関係者からなる協議体を設置・運営し、関係者間の合意形成を行う。

■ 開催・構成員

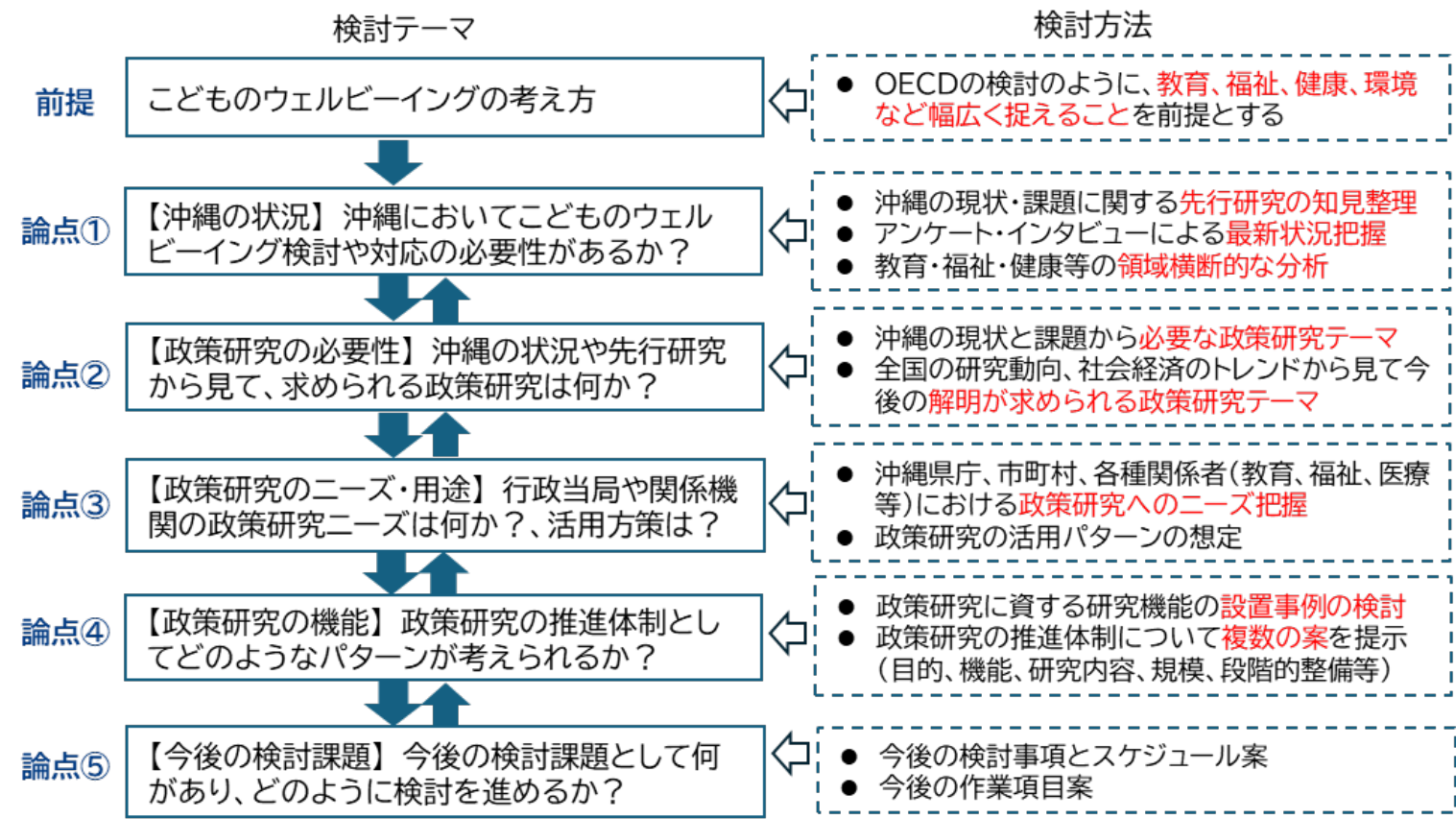
令和7年度は全5回の開催を予定している。

協議体構成員は、関係省庁（内閣府、こども家庭庁、文科省、厚労省）、沖縄県内自治体、国立大学法人琉球大学、教育・保健医療・福祉分野の研究者・実務者等で構成。

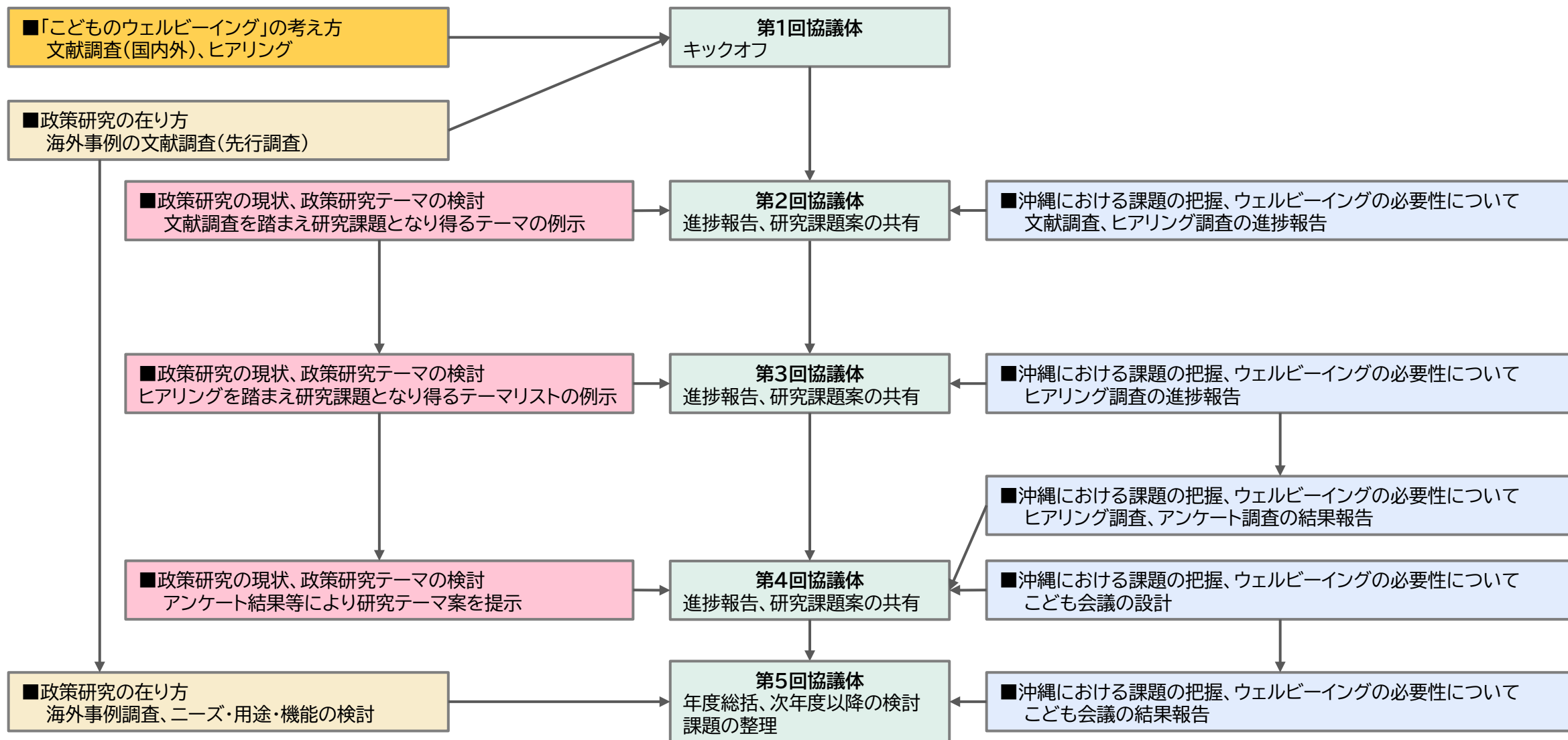
3.2 協議体におけるご議論を想定している主要な論点・各回の検討テーマ(案)

- ご議論いただく点として5つの論点を設定し、各回にて検討していく。

各回 (日程候補)	各回の検討テーマ、議題(論点番号は右図と対応)
第1回 (令和7年 6月25日)	事業の目的を踏まえ、ウェルビーイングを導入する意義を明らかにしたうえで、協議体での本年度のゴールを共有する。(前提)
第2回 (令和7年 8月下旬)	既存調査・研究から見た沖縄のこどもの現状・課題を踏まえ、沖縄におけるウェルビーイング導入の必要性を明らかにする。(論点①②)
第3回 (令和7年 10月下旬)	全国の政策研究課題や政策研究テーマの例を踏まえ、解明が求められる政策研究を明らかにする。(論点②)
第4回 (令和7年 12月中旬)	第3回の事例に追加し、各種関係者へのヒアリング結果も踏まえ、沖縄におけるこども施策向上のためのニーズや活用方策を明らかにする。(論点②③)
第5回 (令和8年 2月中旬)	これまでの議論を踏まえた年度総括を行い、政策研究を推進する体制のあり方について整理するとともに、今後の検討課題を明らかにする。(論点④⑤)



3.3 検討スケジュール・各種調査等との関係性



未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ